

審査員からのコメント

【関沢まゆみさん・国立歴史民俗博物館教授】

昭和館の「オーラルヒストリー」で、半藤一利さんが自分と同じ 14 歳の時に、空襲後、遺体を運ぶという過酷な体験をしたと知り、自分がその場にいたら何ができたのかと想像するだけで足がすくんだといいます。

また、半藤さんが「絶対という言葉を使わない」、「絶対勝利や絶対大丈夫と思っていたけれど全部嘘だった」と話すのを聞いて、岡本さんは戦争がただの昔の話ではなく急に自分のすぐそばにある現実のことにように思えて、しばらくは動くことができなかったといいます。

さらに「世界では今も紛争が続き、平和が壊れてしまう瞬間をニュースで何度も見えています。もしも日本でも同じようなことが起きてしまったらと」考えています。半藤さんとの出会いによって、戦争の怖さが身近なものになっていったことがよくわかります。

【伍藤忠春・昭和館館長】

長崎で平和学習を重ねたものの、戦争は遠い世界の出来事と思っていたところ、半藤さんのオーラルヒストリーである日が近く思えたという率直さ、正直さ。

「絶対」という言葉を使わないという半藤さんの後半生の生き方を的確に理解している。

平和の尊さを「自分の言葉で」伝えられる人になりたいという強い意志を感じた。